

# 石地(いしじ)

登録番号：第8449号

来歴：「杉山温州」の突然変異品種

登録年月日：平成12年11月7日

育成地：広島県安芸郡倉橋町

登録者：石地雷司清（広島県安芸郡  
倉橋町）

育成者：石地雷司清

## 特性

### ■栽培特性

発芽期は4月上旬で、「興津早生」に比べて2日程度、「大津四号」に比べて10日程度早い。満開期は5月上中旬で、「興津早生」に比べて6日程度、「大津四号」に比べて10日～2週間程度早い。枝は直立気味に発生し、分岐角度が狭い。また、一芽から複数の新梢が発生するので、放任すると枝が込み合う。葉もやや立ち気味に着生し細長く先は尖っている。台木との接ぎ木部分には台負け現象がみられる。ウイルスフリー樹でも同様の現象がみられることから、台負け現象は本品種の特徴と考えられる。

### ■果実特性

成熟期は11月下旬から12月上旬である。果実の着色は10月中旬から始まり、11月下旬に完着となる。果皮の色は濃橙色で着色は良好である。果実は中玉で、果形指数は130程度でやや球形である。収穫時の果実糖度は12度程度で、クエン酸含量は1.00%以下になる。減酸は良好だが、成熟期に入ってから減酸は少なく食味が低下しにくい。じょうのうはやや硬い。果汁中の果糖の割合は「杉山温州」に比べて高く、糖度計が示す値よりも甘味を強く感じ、食味は非常に良い。浮皮の発生は極めて少なく、降雨が多い年でも収穫が同じ時期の他の温州ミカン品種に比べて浮皮の発生は著しく少ない。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

品種特有の病虫害の発生は認められない。普通温州の慣行防除体系で実用上の問題はない。ただし、開花期が早く訪花害虫などの被害を受けやすいため、開花期防除は遅れないように実施する。

結実前は枝葉の生長が旺盛だが、結実を始めると、葉が小型化したり新梢が短くなる樹勢低下の様相になり、隔年結果が顕著になる。このため、着果過多にならないように摘果を行う。樹勢が低下すると、枝の基部からの新梢発生が少なくなり、結果部位が枝先端のみになるため、せん定時には弱ってない部分まで切り返して枝の更新を図る。また、施肥は普通温州に準じて行い、樹勢の低下を防ぐ。一方、夏期に干ばつ傾向が続くと、秋雨によって不時開花しやすい。秋の開花を防ぐためには、夏の干ばつが続く時、樹体に過度の水ストレスがかからないように灌水を行う。枝の分岐角度は狭く、接ぎ木部は台負け現象がみられるので、結果樹では果実の重みで分岐部分や接ぎ木部で枝が折れやすい。このため、枝吊りや枝支え等を徹底する。また、高接ぎや苗木の未結果樹では、新梢の誘引や芽かき等を行い、早い段階から樹の骨格を作ることが重要である。

### ■地域適応性

温州ミカンの栽培地域で栽培可能である。また、平坦地など一般的に良食味のミカンができてにくい土壌条件でも浮皮が少なく、良食味の果実が生産できる。

(長谷川美穂子)